

第Ⅱ章 鳥取県の現状

平成27年4月、一人一人の子どもが健やかに成長することができる社会の実現をめざし、幼児教育や地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく「子ども・子育て支援新制度」が始まりました。小規模保育事業、家庭的保育事業といった新たな事業類型の地域型保育事業所や認可外（届出）保育施設を含め、県内には、令和6年4月現在294の幼児教育・保育施設があります。**資料1**

雇用形態や家庭環境の多様化等により、認定こども園・保育所の利用率は年々増加しています。**資料2** 年度当初の保育施設の待機児童数は0人（平成18年度以降連続）、小児科専門医数（人口10万人あたり）は全国1位となっており、さらに令和6年4月より小児医療費（18歳以下）の完全無償化が始まりました。子育てをしやすい環境があると言えますが、一部の地域では年度途中で待機児童が発生し、県内の保育現場では保育人材不足も大きな課題となっており、保育ニーズの高まりに応じた対応が必要です。

資料3 ライフスタイルや就業状況の変化などにより、家庭教育が困難になっている状況があり、一時預かりや病児・病後児保育等を含めた様々な保育環境の充実が求められています。

また、価値観の変化、核家族化、少子・高齢化をはじめとする社会の変化などにより人間関係が希薄化し、家庭・地域での教育が困難になっている状況があり、祖父母世代の子育て支援や、見守りや相談、仲間づくりなど地域での子育て支援へのニーズは高まっています。

さらに、子どもの育ちには豊かな体験が重要であることから、鳥取ならではの自然を生かした教育・保育をはじめ、幼稚園・認定こども園・保育所等で豊かな体験をさせていくことが必要です。そして、乳幼児期から周囲の人との愛着関係や自己肯定感を育むとともに、鳥取県に誇りと愛着をもち、自分らしい生き方を実現するとともに、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができる人材を育むことが必要です。

また、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性に鑑み、令和元年10月より、幼児教育・保育の無償化（3歳以上児）が始まり、全ての施設において幼児教育の質を向上していくことが求められています。県教育委員会と県知事部局は、連携・協働して研修を実施し、幼稚園教諭・保育教諭・保育士等の指導力向上を図っています。幼児教育担当指導主事（以下担当指導主事）と幼児教育支援員、幼児教育アドバイザー、保育専門員が幼稚園・認定こども園・保育所等を訪問して、幼児教育に関する実態把握、指導助言を行うことにより、市町村及び各園の取組を支援しています。平成22年度からは、市町村保育担当課と連携して、保育所の計画訪問を実施しています。

一方、保育の実施主体である市町村の一部においては、単独で保育所等への指導を行う専任職員（保育アドバイザー等）の配置が困難であるなど、市町村の幼児教育推進体制は十分とはいえない状況があります。

<幼稚園・認定こども園・保育所等の施設数>

(令和6年4月1日現在)

資料1

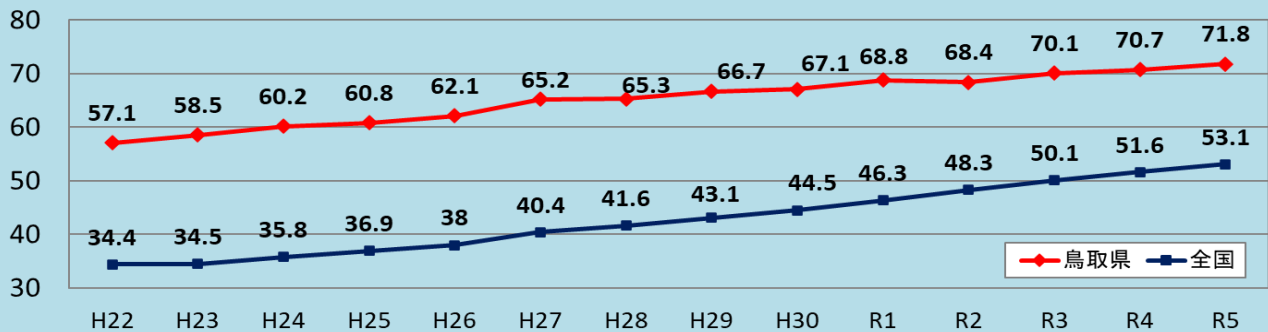
区分	種別と対象児童	施設数
幼稚園	教育を行う施設(学校)(満3歳から就学前児童)	15(国公立4、私立11)
保育所	保育を行う施設(児童福祉施設)(乳児から就学前児童)	121(公立68、私立53)
認定こども園	教育・保育を一体的に行う施設(乳児から就学前児童)	65(公立22、私立43)
地域型保育事業所	保育を行う施設(原則、乳児から2歳児)	35(公立5、私立30)
届出保育施設	保育を行う施設	58

<認定こども園・保育所の利用状況>

資料2

◆本県における保育所等利用率の推移(単位: %)

(各年10月1日現在)



※出典 全国: 福祉行政報告例

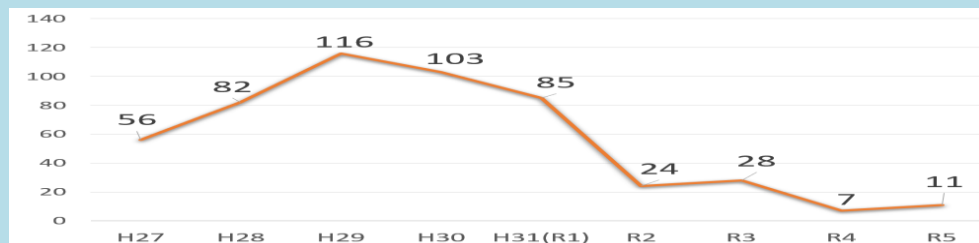
鳥取県: 平成29年までは福祉行政報告例、平成30年からは待機児童数調査(保育所と認定こども園の、保育が必要な児童数)

<年度途中の待機児童数の推移>

資料3

◆本県における年度途中の待機児童数の推移(単位: 人)

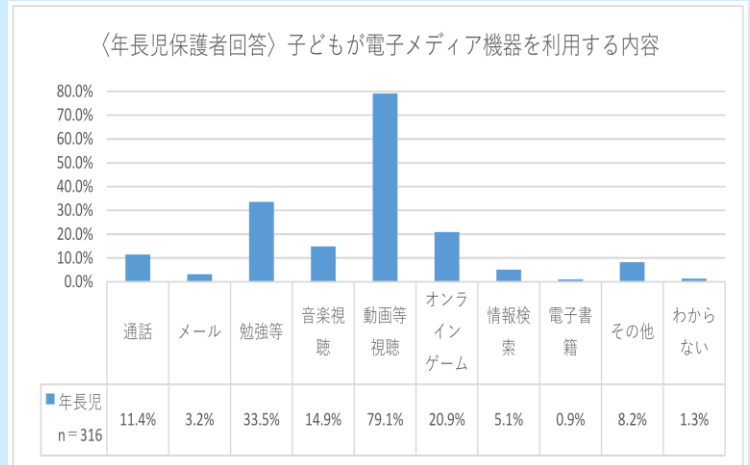
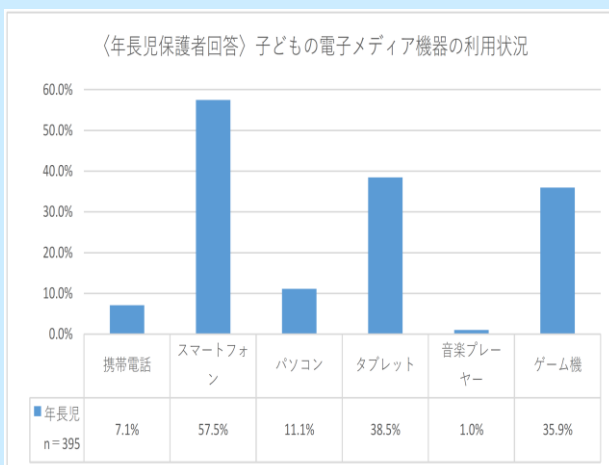
(各年10月1日現在)



※出典 全国: 福祉行政報告例

鳥取県: 平成29年までは福祉行政報告例、平成30年からは待機児童数調査(保育所と認定こども園の、保育が必要な児童数)

<メディアに関する実態について>



「インターネットの利用に関するアンケート」(令和元年鳥取県教育委員会社会教育課) 回答: 県内未就学児(年長児)の保護者
スマートフォンやタブレット等の電子メディア機器の利用は増加傾向にあり、インターネットを利用して動画視聴をする等、生活や遊びの中に電子メディア機器の利用が浸透していることが分かります。

市町村幼児教育・保育担当者や園関係者への聞き取りや幼児教育調査（令和3年度実施）の結果から、下記のような姿がうかがえます。

■子どもの姿

園では、進んで体を動かすことを楽しんだり、友達と一緒に活動する楽しさを味わったりする姿が多く見られます。また、絵本やお話等に興味をもち、楽しむ姿も多く見られます。

一方で、インターネットの急速な普及等、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、家庭や地域における遊びが変化し、外遊びや直接体験が不足している傾向が見られ、携帯ゲーム機やスマートフォン、電子メディアとの関わりが課題となっていることがうかがえます。[資料4](#)

また、基本的な生活習慣の定着や精神的な自立に課題が見られ、失敗しても何度も繰り返して挑戦することが苦手な様子もうかがえます。

さらに、集団の中で自分の思いを言葉にして伝えたり相手の思いを受け止めたりすることなどが苦手であるといった傾向も見られます。

■保護者の姿

保護者だけでなく、家族みんなで子育てや園行事等に参加するなど、子どもの育ちや学びについて関心が高い傾向にあります。また、家庭における子育てが難しくなっている現状もあります。

また、電子メディアの発展・普及により、簡単に子育て等の情報が手に入る一方で、子育てへの不安や孤立感があるなど、保護者同士の関係づくりも難しくなっています。[資料5](#)

さらに、乳幼児期に親子の愛着関係をしっかりと築き、情緒の安定を図っていくことや、子育て文化の継承が課題となっています。

■保育者の姿

子どもや保護者に寄り添い、思いや考えを汲み取って応答的にかかわる姿が多く見られます。また、「遊びきる子ども」を育むことを意識した、子ども主体の保育実践を進める保育者が増えています。[資料6](#)

保育人材の不足、長時間保育への対応や勤務形態の複雑化等により、研修時間の確保が難しくなっていますが、令和3年度鳥取県幼児教育調査では、園内研修の充実について肯定的な回答が増えています。各園において研修の重要性を理解するとともに、研修時間の確保のための時間設定の工夫や職員体制、研修内容等の工夫が積極的に行われています。[資料7](#) [第IV章2 50ページ](#)

また、子どもの育ちと学びをつなぐ幼稚園・認定こども園・保育所等、小学校等において、子ども同士の交流や教職員の交流の充実が図られています。互いの教育・保育を理解し、より充実させるよう、合同研修会や保育体験等の取組が進められています。[第IV章3 58ページ](#)

<子育ての悩み実態>

資料 5

◆子育ての悩みや不安について

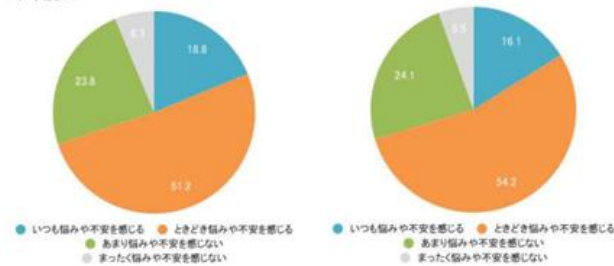
「家庭教育」に関する悩みや支援のニーズについて

1. 子育ての悩みや不安の程度

①あなたは現在子育てをしていて、悩みや不安をどの程度感じていますか。(単一回答)

※ スクリーニング調査において「現在子育て中で同居中の子どもがいる」を選択した者を対象にしている(n=703)

今年度%



No	選択肢	選択数	今年度%	昨年度%
1	いつも悩みや不安を感じる	132	18.8	16.1
2	ときどき悩みや不安を感じる	360	51.2	54.2
3	あまり悩みや不安を感じない	167	23.8	24.1
4	まったく悩みや不安を感じない	44	6.3	5.5

子育て中の家庭の7割が「いつも」または「ときどき」悩みや不安を感じている。また、昨年度調査と比較しても、「いつも悩みや不安を感じる」と回答した人は2.7ポイント増加している。

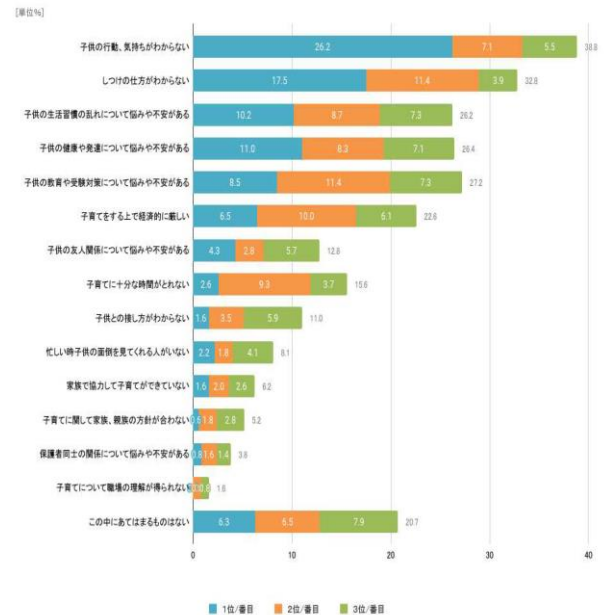
「令和6年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究（家庭教育についての保護者へのアンケート調査）」(文科省委託事業)

◆子育ての悩みの内容

2. 子育てや家庭教育に関する不安や悩みの内容と優先順位

②ご自身の子育てや家庭教育に関する不安や悩みのある項目について、特にあてはまる項目を最大3つまで選んで順位をつけてください。(複数回答)

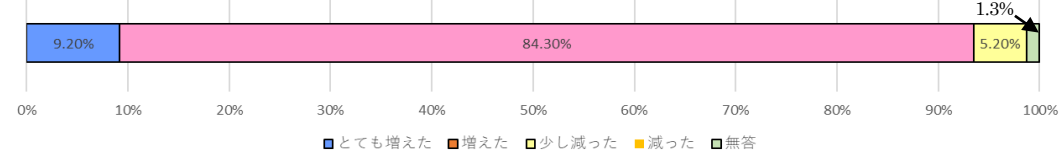
※ ②において「いつも悩みや不安を感じる」「ときどき悩みや不安を感じる」を選択した者を対象にしている(n=492)



<遊びきる子どもを育む取組について>

資料 6

自園において「遊びきる子ども」を意識したした保育を実践する保育者は増えたと感じますか。



鳥取県教育委員会が作成した冊子等の活用状況

鳥取県幼児教育振興プログラム：園80%・小学校74%

鳥取県幼小接続ハンドブック：園67%・小学校89%

令和6年度鳥取県幼児教育センター実施の研修会参加者アンケート・令和6年度学校教育実施状況調査



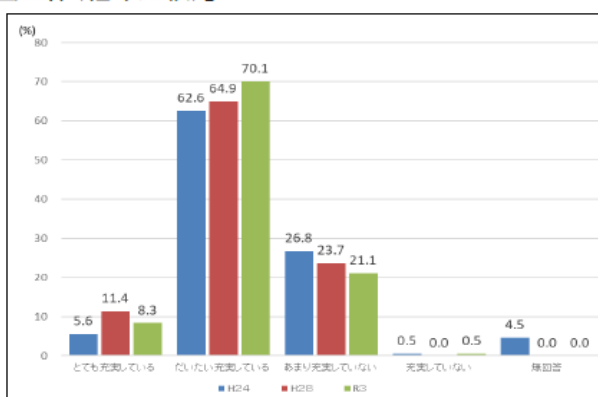
<保育者の研修について>

園内研修の充実

園内研修が「あまり充実していない」「充実していない」と答えた理由

資料 7

【園全体(経年比較)】



	園数
仕事が多忙で研修する時間がない	2 2
研修の中心となる職員がいない	5
職員研修の計画がない	5
平日の子どもがいる時間、または時間外の研修は難しい	2 9
全員そろっての研修会の実施が難しい	3 8
研修の必要性を感じない	0
その他	2
・研修への意識・意欲の違いがあるため、研修の工夫が必要	
・研修をしても、実践がなかなか変わりにくい	

全 300 園中複数回答

「令和3年度鳥取県幼児教育調査」(令和4年3月)

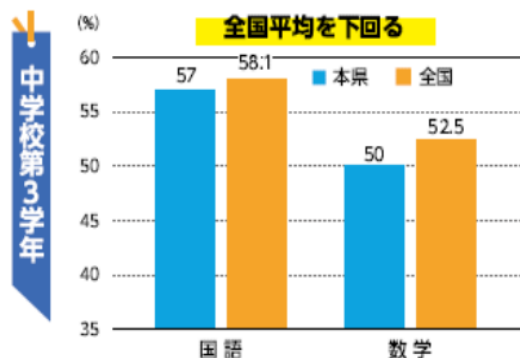
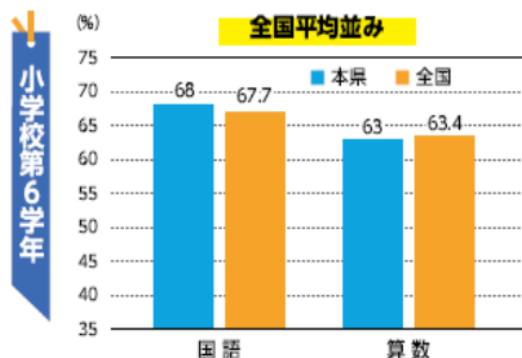
■本県の児童生徒の現状

(1) 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果

学力 教科調査より

令和6年度 全国学力・学習状況調査

「今、求められる学力」を測り、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てるため、今年度も小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。



学習状況 児童生徒質問調査より

成果



鳥取県では、将来の夢や目標を持ち、地域や社会に貢献したいと思う子どもが増えていきます。

夢や目標を持っている。

小学校81.8%(-0.6%)
中学校66.5%(+0.5%)

地域や社会のために何かしてみたい。

小学校83.6%(+0.1%)
中学校76.8%(+0.7%)

※()内は全国平均との比較

課題

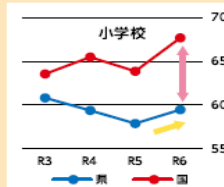


自分の考えを工夫して発表することに課題が見られます。

自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表している。

小学校59.5%(-8.1%)
中学校59.9%(-4.9%)

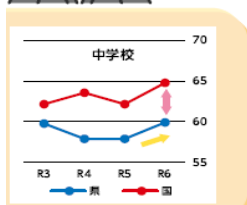
※鳥取県と全国の肯定的回答の割合の推移(R3~R6)



一方で、自分の考えを発表する機会に工夫して発表した児童生徒ほど、教科の平均正答率が高いという結果も出ています。

「思考力、判断力、表現力等」の育成に大きく関わる要素だといえます。

授業の中で、自分の考えを持つことや、それを発表する機会を増やすことが必要です。



鳥取県の取組

鳥取県として、小・中・義務教育学校における重点目標を以下のように設定しました。

自分の考えを持ち、工夫して表現する子どもの育成

重点目標の達成に向けて、このような授業づくりに取り組みます！

- (国語の例)
・教科書で身に付けたことを、初読の文章で活用する機会を設定します。
- (算数、数学の例)
・問題の解き方などを相手に分かりやすく説明する機会を設定します。
- (理科の例)
・科学的な知識や言葉を用いて考えたり、説明したりする学習活動を充実させます。

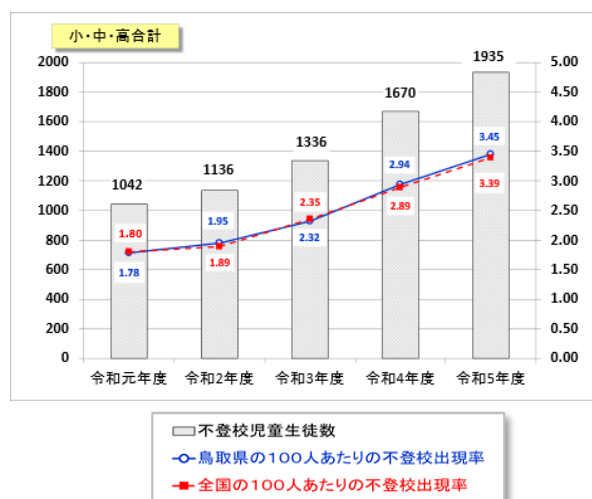
「教育だより とっとり夢ひろば」(令和6年 Vol.108 鳥取県教育委員会)

POINT

将来の夢や目標をもつとともに、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を育むことが、義務教育以降の生活や学習の基盤となると考えられます。

(2) 不登校児童生徒の割合の推移（令和元年度～令和5年度）

区 分	不登校生徒数	100人あたりの不登校生徒数	
	鳥取県 (国公立)	鳥取県 (国公立)	全国 (国公立)
令和元年度	1042	1.78	1.80
令和2年度	1136	1.95	1.89
令和3年度	1336	2.32	2.35
令和4年度	1670	2.94	2.89
令和5年度	1935	3.45	3.39



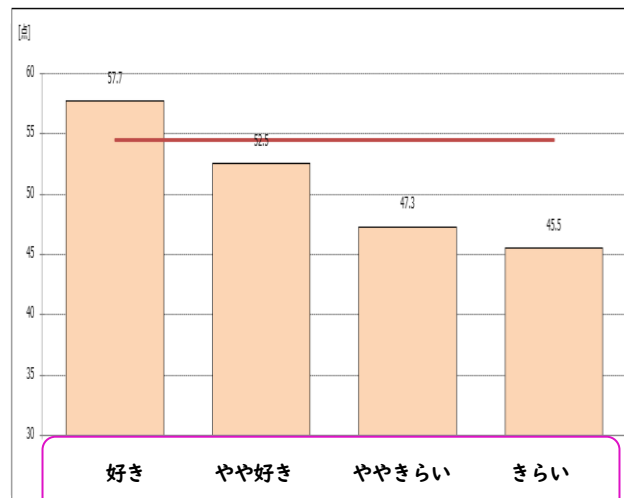
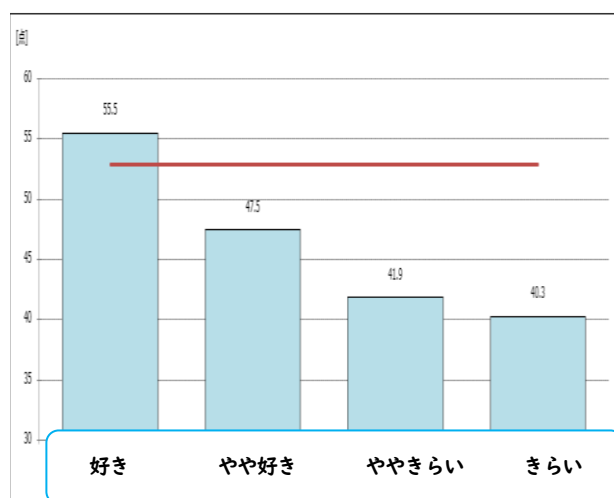
(3) 令和6年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査 鳥取県の結果

小5男子	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横跳び (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ソフトボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
県平均値	15.99	19.03	32.31	41.56	52.52	9.47	149.07	21.22	52.85
全国平均値	16.02	19.19	33.79	40.67	46.90	9.50	150.46	20.74	52.54

小5女子	握力 (kg)	上体 起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復 横跳び (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ソフトボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
県平均値	15.81	18.10	36.75	39.57	41.91	9.74	140.98	13.38	54.44
全国平均値	15.78	18.16	38.21	38.71	36.60	9.76	143.18	13.15	53.93

「体力合計点」×「運動が好き」のクロス集計 ＜小学校5年生男子＞ ＜小学校5年生女子＞

* 横線は教育委員会の単純平均（質問紙項目を加味しない）を表します。



「運動が好き」と答えた児童は、体力合計点が高いことが分かります。

POINT

乳幼児期においては、いろいろな運動遊びや経験を通して、体を動かす楽しさや満足感を味わうことが重要です。